

熱血!クラブチーム in 大庄

50年以上続く剣道クラブ「尼西水明クラブ」の稽古を見学し、代表の菅成範(すが しげのり)師範にお話をうかがった。

尼西水明クラブは、警察官だった菅さんの父が1972年に創設、現在は幼稚園児から中学生まで約30人が在籍し、大庄地区内の小中学校で週5日稽古をしている。

「創設時から週3日借りていた旧尼崎西警察署の道場が使えなくなり、稽古場所を確保するため、保護者が一生懸命動いてくれた結果、気が付いたら平日毎日になっていました(笑)。親よりも長く一緒に時間を過ごす子どもも多く、体調の変化が一番に気付きます。」

菅さんは、父から受け継いだ“平常心”とともに、“素直・感謝・思いやり”を、剣道を通して子どもたちに伝えているという。



あまにし すいめい 尼西水明クラブ



「人の声に耳を傾ける素直さ、保護者や学校など支援してくれる人への感謝、そして、相手の気持ちを理解する思いやり、この三つが剣道にもつながっているんです。また、剣道は“見る”スポーツ。相手を見て、相手の呼吸を見ることで気をくみ取る、それは相手を思いやることなんです。」

剣道は、勝つことではなく、心を学ぶことが目的だといわれ、常に相手への敬意をもって対峙することが重視されている。

「だから、試合で勝ってもガッツポーズは禁止です。相手への思いやり、それが礼節なんです。そして、平常心で自分の実力を全部出し切ることが大事で、そのための努力が結果につながっていきます。2023年は、小学生は全国でベスト17、中学生は全国5位という過去最高の結果を出すことができました。」

凜とした空気の中に子どもたちの掛け声と竹刀を打ち合う音が響く体育館。そこには熱気が満ちていた。



菅さん(前列中央)と尼西水明クラブのみなさん

尼西水明クラブ

✉ : amanisuisuimei_kendou@yahoo.com.jp

突撃!となりのグループさん

～生涯学習プラザで活動するグループさんを紹介します～

さんしん りゅうせん 三線「琉線研究会」

昭和60年代に4、5人から始まり、30年以上活動している琉線研究会。

三線の音色に魅せられた仲間が毎週集まる大庄南生涯学習プラザへ直撃!



インタビューに答えてくれた山平誠義先生

伊良部島出身。先代の先生の一番弟子で、引き継いで指導を始めて約10年になる。

グループの活動を教えてください

定年後や子育て卒業で自分の時間を持てるようになった方、沖縄旅行で三線に魅せられた方など幅広い年齢層の方が趣味として稽古しています。

三線を弾きながら、全員で一つの曲を声を出して歌い楽しんでいます。また、田舎の行事や親睦会にも参加したり、休憩時には雑談、世間話をして親睦を深めています。

先生にとって三線とは?

“元気をもらえて、みんなの心が一つになれる”そんな三線の音色を聞くと、もう体がウズウズして踊りたくなります。島の祭りや行事、お祝い事にはなくてはならないのが三線なんです。



大庄生涯学習プラザまつりでは日頃の練習成果を発表



大庄日本語よみかき学級の外国人のみなさんとの交流

最後にメッセージをお願いします

ストレスや悩みのある時、大きな声を出して歌うと心が軽くなります。また、歌詞も覚えるので、頭の体操にもなります。稽古を終えて帰る時は、気分爽快でスッキリしていますよ。2024年4月からは大庄北生涯学習プラザで気分も新たに稽古しますので、ぜひ一緒に楽しみましょう!



声を出して歌うから、
思いが伝わったら嬉しいな

活動日: 水曜夜

活動場所: 2024年4月以降は大庄北生涯学習プラザ(☎:6419-3667)

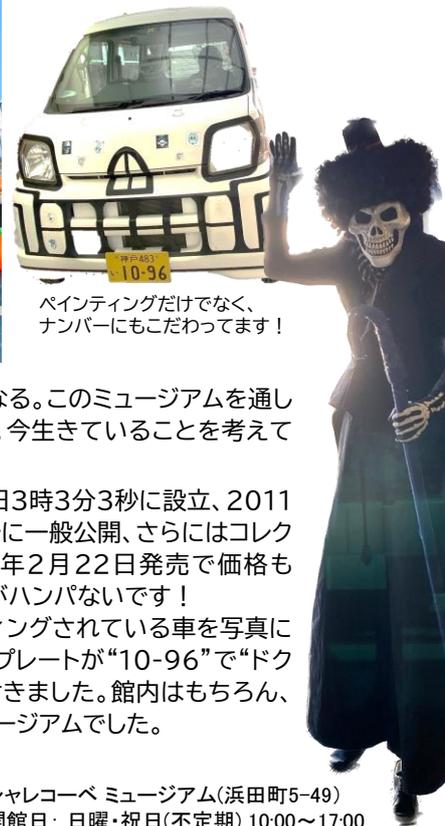
大庄 たんてい

ご近所のナゾをばさる!

国道2号線を通っていると、壁から飛び出している頭蓋骨が！思わず二度見してしまうチヨット怖そうな建物・・・勇気をふりしぼって潜入調査してきました！



運転している人がギョッとになったら危ないということで、建物の正面を道路とは反対側にしたとのこと。



ペインティングだけでなく、ナンバーにもこだわってます！

ゲートを入れて入口に向かうと、ナント建物全体がドクロ！ここは、テレビの珍百景にも認定された頭蓋骨の博物館「シャレコーベミュージアム」なんです。

取材がハロウィンイベント当日だったこともあり、ドクロマスクの2代目館長山本佳代さんと骸骨に迎え入れてもらいました。

山本さんの父、初代館長で脳神経外科医の河本圭司さんが収集した約8,000点のうち1,000点ほどが1階から3階まで所狭しと展示されていて、それら全てがスカル(頭蓋骨)に関するものばかりです。

3階の展示棚にある金属装飾を施されたスカル(頭蓋骨)は、初代館長が収集を始めるきっかけとなったもので、持ち帰ってから事故が相次いだためお蔵入りをしたという日くつきのものだそうです。

元々お客さんとして来ていたというスタッフさんは、初代館長が収集を決意したスカルと同じものを持っていたことから、「ここで働なきさい」という話になったそうで、日くつきのスカルは素晴らしい出会いも生み出してくれていました。



集めるきっかけだけでなく、働くきっかけにもなったスカル

「人間、最後はみんなこうなる。このミュージアムを通して今を見つめ直してほしい。今生きていることを考えてほしい」とのこと。

ところで、2003年3月3日3時3分3秒に設立、2011年11月11日11時11分11秒に一般公開、さらにはコレクションカタログまで2022年2月22日発売で価格も2,222円！もう、こだわりのハンパないです！

取材後、ドクロにペインティングされている車を写真に収めようとするとナンバープレートが“10-96”で“ドクロ”になっていることに気がきました。館内はもちろん、外も楽しいシャレコーベミュージアムでした。



2代目館長の山本佳代さん(いつもこんな格好ではありません。)

シャレコーベミュージアム(浜田町5-49)
開館日: 日曜・祝日(不定期) 10:00~17:00
入館料: 中学生以上1,000円、小学生500円
✉: skull-museum@m9.dion.ne.jp
🌐: http://skull-museum.jp
X(旧ツイッター): @skull_museum

じいちゃんの大庄いま昔

阪神電車 大庄を通るはずだったもう2本の路線

前号に大庄を東西につらぬく阪神電車には、もう一本の路線が国道2号線にあったというを書きましたが、実はさらにもう2本の路線がこの大庄を通る線として計画され、実際に工事も進行していたのです。

昭和のはじめ、第一次世界大戦後の重工業の進展の波に乗って、大庄南部でも発展顕著な阪神工業地域の足として、今津～出屋敷の本線と海岸部を環状で結ぶ計画が阪神にありました。武庫川を渡る橋梁の工事など始まりましたが、終戦で中止されてしまいました。



昭和60年頃まで残っていた未成に終わった武庫川橋梁(現在の阪神高速道路湾岸線の北あたり) [写真提供: 飯野浩三氏]

もう一つは、同じく昭和のはじめ、阪神は阪急の牙城宝塚に乗り入れんとして尼崎～宝塚を結ぶ計画を立て工事に立ち入りしましたが、資金難などで有料自動車専用道路に変更、これが後の県道尼宝線です。この二つの線路があったなら、一時期大庄地区には四つの阪神電車路線が走ったということになります。



なんとなく電車の停車場のような雰囲気のある西大島バス待合ベンチの後ろにある表示も駅標のような感じです。



大庄パフォーマー #002



“冷凍室”のドラマー 庄本キョウヘイさん

ニューヨークで活動している
尼崎出身のジャズドラマー
一時帰国中の彼の練習場所は...



元コープ大庄店「大庄元気むら」のバックヤードに残る冷凍室。重厚なドアを開けると、床張りで吸音材が張られた音楽スタジオが現れた。
2022年冬からここで練習しているのが、ジャズドラマーの庄本キョウヘイさんだ。

父の影響で13歳からドラムを始め、2014年にジャズの本場ニューヨークでの活動を始めた。「生活の中に音楽があり、ジャズがある—そんな中に身を置いて、本場のノリというかスイング感を呼吸するように自分の身体に取り込んでいく—そんな毎日です。」と語る彼は、現地のミュージシャンからも“スイングするドラマー”として高く評価されている。



昨年、母の介護のために一時帰国したが、適当な練習場所が見つからず、夏は夜中に南部の工場街や埠頭へドラムセットを運び練習していたところ、知人を介して、この場所と出会った。

渡米前は内装の仕事をしていたこともあり、内部の改装はすべて自身で行い、自分仕様のスタジオに仕上げた。「構造上エアコンが設置できず、扇風機だけ。汗だくになって練習しています。」

久しぶりに帰国した尼崎の印象を聞くと、「あちらこちらでイベントが盛んに開催されていて、活気を感じました。」とのこと。

自身も、アルカイクホールやライブハウスでのセッションなど帰国中も活発に活動している。

NYとAMAを股にかけるKyohey Shomotoの熱いプレイは、大庄の冷凍室から生まれていた。

庄本 キョウヘイ

✉ : kyowbomb0619@icloud.com

facebook : kyohey.jazz

Instagram : @kyo_newyork0619



大庄生きもの図鑑



生きもの大好きな 高校生によるマニアックコラム

ある日、I君とボクは、尼崎の森中央緑地のカメさんひろばを訪ね、職員の方藤さんにお話をうかがった。

カメさんひろばオープンまでの経緯…

西宮市の幼稚園で飼育できなくなったニホンイシガメを引き取ったのがきっかけで、当初は水槽で飼育していたようだ。専門家の鳥井先生の協力により2021年にオープン。その後も本来の環境に近づくよう工夫を重ねて今の形に。

ニホンイシガメの繁殖に挑戦…

最初の6匹は全員オスだった。同じ武庫川水系のメスを飼育していた鳥井先生から「縁談」があり、メス2匹を借りて繁殖に挑戦した。気温が28℃より低いとオス、高いとメス、28℃を保てば両方生まれるそうで、施設の更衣室を使って28℃を保った。結果、卵13個中11匹という鳥井先生も驚くほど高いふ化率で大成功。「初めての試みだったけど、無事にふ化してよかった。」と笑顔の方藤さん。今後は楽しみだ。

ニホンイシガメは準絶滅危惧種…

ひろばには紐が張られ、猛禽類などの天敵からカメを守っている。アライグマや人間の乱獲、生息地の開発等で数を減らす野生のニホンイシガメは、絶滅が懸念されている…。

カメが地球を救う…

「子ども達が外来種、生態系などの地球環境を考える入口にしてほしい。かわいいカメを見て癒されて。」とニホンイシガメへの愛を添えて熱い想いを語ってくれた方藤さん。

「いい記事を期待しています！」と僕たちを笑顔で見送ってくれた。



パークセンター内の水槽にも



カメ愛あふれる方藤さん



植木鉢の中の親ガメと子ガメと思ったら、どちらも大人でした！
メスはオスより3倍以上ありました。

県立尼崎の森中央緑地(扇町33-4)

開館日: 年末年始以外 9:00~17:00

☎ : 06-6412-1900

✉ : info_amamori@hyogopark.com

今回の取材場所

レンズの向こう側

～NAKAJIMAの視点～

ここでは、大庄にあるいろいろな場所、風景を編集委員の視点から紹介していきます。

武庫川堤防路を遮断しているR43南側斜面に在ったケヤキある日通りかかるとチェーンソーの音が響いていて間もなくこの風景は消えた (2017年5月に撮影)



編集部員 & タレコミ募集!!

とくに記事を書いたりデザインをしてみたい人を真剣に募集しています！もちろんなんだか楽しそうという方も大歓迎。下記までご連絡ください。

第3号編集メンバー

ぜひ誰かに感想を伝えてもらえるとう嬉しいです。



にしむら



まつなが



おどう



そが



なかじま



あおかわ



いちすぎ



むらせ



おかだ



いちだ



いのうえ



とみおか



きむら



まつした



しんあみ



たけの

～事務局～

発行: O2(大庄通信)編集部
事務局: 尼崎市役所大庄地域課
TEL: 06-6419-8221 FAX: 06-6419-8226
✉: ama-osyo-chiiki@city.amagasaki.hyogo.jp

2024年(令和6年)4月発行

大庄地域課SNSでも
ご近所ニュース発信中!



FACEBOOK



Instagram